

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	安形 元伸 (実務経験あり)		
授 業 科 目	児童福祉特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1, 2 年次・前期 (隔年)
授業の主題 目 標	<p>子ども家庭の福祉に関する実施機関・社会資源における日常的な援助場面から作成された具体的な事例を、グループ討論を通じて分析していきます。</p> <p>あわせて児童家庭福祉援助活動としての保育、児童家庭福祉援助活動としての相談援助（ソーシャルワーク）、児童家庭福祉の専門援助技術、実施機関内における協働や関係諸機関相互における「支え合う援助チーム」のあり方などを学びます。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子ども虐待への対応の移り変わりとなつた新たな課題 1 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子ども虐待の歴史</li> <li>(2) 戦後からの子ども虐待対応</li> </ol> </li> <li>2. 子ども虐待への対応の移り変わりとなつた新たな課題 2 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 見えなくなった子ども虐待</li> <li>(2) 子ども虐待対応の活発化</li> <li>(3) 虐待対応の三つの段階と直面する課題</li> </ol> </li> <li>3. 虐待を受けた子どもの特徴</li> <li>4. どこからが虐待か考える (1) <ul style="list-style-type: none"> <li>ー心の発達の阻害ー</li> </ul> </li> <li>5. どこからが虐待か考える (2) <ul style="list-style-type: none"> <li>ー身体的発達の阻害ー</li> </ul> </li> <li>6. どこからが虐待か考える (3) <ul style="list-style-type: none"> <li>ー過酷な環境を生き抜く中で身につけてしまったものー</li> </ul> </li> <li>7. どこからが虐待か考える (4) <ul style="list-style-type: none"> <li>ートラウマの後遺症ー</li> </ul> </li> <li>8. 個々の子どもを理解するために (1) <ul style="list-style-type: none"> <li>ーソーシャルワークにおける「見立て」とはー</li> </ul> </li> <li>9. 個々の子どもを理解するために (2) <ul style="list-style-type: none"> <li>ー日常生活の様子を把握するー</li> </ul> </li> <li>10. 個々の子どもを理解するために (3) <ul style="list-style-type: none"> <li>ー生育歴から考察するー</li> </ul> </li> <li>11. 個々の子どもを理解するために (4) <ul style="list-style-type: none"> <li>ー子どもを理解し、受け止めようとする援助者の姿勢ー</li> </ul> </li> <li>12. 援助の実際</li> <li>13. 支え合う援助チーム (1) ー援助チームのひずみー</li> <li>14. 支え合う援助チーム (2) ー援助者同士のひずみー</li> <li>15. 支え合う援助チーム (3) ーチームワークづくりー</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容	児童福祉施設での実務経験を活かし、子どもの人権擁護の現状と実践的課題および保護者を含めた子ども家庭福祉問題に関する実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	増沢高著『虐待を受けた子どもの回復と育ちを支える援助』福村出版、2013年 適宜資料、プリント等を配布。				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分を予習・復習する。 授業のなかで、調べる必要がある事項について調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	授業ごとに提出するレポート (50%) レポート課題 (50%)				
履 修 上 の 注 意	配付資料等を綴じるファイルを各自で用意する。				